

基本方針

大阪市のすべての子どもが生き生きと読書を楽しめる読書環境の整備

3 つの観点

- 1 子ども読書環境の整備・充実
- 2 子ども読書活動に関する普及・啓発
- 3 子どもと読書に関わる人のつながり作り

目標 (成果・進捗把握)

読書をしない子どもを減らす

【指標】全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙調査）の「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して「読書を全くしない」と回答する児童生徒の割合。

読書が好きな子どもを増やす

【指標】本市調査（小学校学力経年調査・年度目標アンケート）の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合。

計画期間

令和 8（2026）年度から令和 11（2029）年度までのおおむね 4 年間

「子ども読書活動推進計画」とは

- 平成 13（2001）年成立の「子どもの読書活動の推進に関する法律」に、各市町村で計画を策定して施策を進めるよう努めるとされており、大阪市では、乳幼児期から読書に親しめる環境、子どもと本とを結びつける人が身近にいる環境を醸成し、子どもの読書活動を支援するための施策の方向性と目標・指標を示すことを目的とし、平成 18（2006）年に最初の計画を策定、以降数年ごとに計画を見直し、現行第 4 次計画は令和 4（2022）年度から 4 年間で計画期間としています。

第 4 次計画の成果と課題

- 「読書をしない子どもを減らす」（いわゆる不読率を下げるのが目標）は、なおも全国平均から隔たりがある状況があり、また、小学生に比べて中学生が本を読まない傾向が依然みられます。
- 「読書が好きな子どもを増やす」は、小学校で「読書は好き」と肯定的に回答する児童の割合が 72～74% 台で推移し、目標値に届きませんでした。
- 子ども読書環境整備に向けた取組は、市立図書館と区役所等との連携事業回数が大きく伸びるなど、一定の実績をおさめています。
- 市立図書館ウェブサイトの「こどものページ」「ティーンズのページ」のアクセス数が伸び悩んでいるなど、広報啓発や周知活動に課題があります。

第 5 次計画のポイント

- 「基本方針」「3 つの観点」「目標」は、ほぼ第 4 次計画を踏襲し、引き続き子どもの読書活動の推進を進めるとともに、具体的な取組で、課題を解決するための手法の見直しなどを行います。
- 観点 1「子どもの読書環境の整備・充実」については、乳幼児期から、発達段階に応じて途切れなく読書環境の整備に取り組むとともに、外国につながる子どもや障がいのある子どもも含めたすべての子どもが読書を楽しむことができるよう、一人一人の多様性に応じた対応により、読書習慣の形成をめざします。学校教育においては、読書環境の充実をはかります。その際、読書活動を通じた読解力の育成、また、紙の本とデジタルそれぞれの特性を理解しその両方を活用できる能力の育成に留意します。
- 観点 2「子どもの読書活動に関する普及・啓発」については、積極的に情報発信を行い、子どもの読書活動の推進につなげます。また、子どもへの普及・啓発、大人への理解促進の両方を意識し、催しの開催や紙媒体での発信、ウェブサイトや SNS の活用など、目的や内容に応じた手段を用いて効果的に行います。
- 観点 3「子どもと読書に関わる人のつながり作り」については、ボランティア、教職員、企業・団体など、子どもの読書に関わる人のつながり作りを進め、読書活動支援のネットワークを形成し、社会総がかりで子どもの読書活動を推進することを目指します。